

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「新出多言語資料からみた敦煌の社会」（平成 28 年度第 2 回研究会）

日時：平成 28 年 11 月 6 日（日曜日）午前 10 時より午後 17 時 30 分

場所：AA 研マルチメディア室（304）

報告者名（所属）

1) 松井太（AA 研共同研究員，大阪大学）

「安西榆林窟のシリア文字テュルク語題記銘文」

(A Syro-Turkic Inscription of the Yulin Cave)

表記のシリア文字テュルク語題記銘文 1 条の解説・校訂を示し，モンゴル時代を中心として東方ユーラシア地域に遺存するシリア文字テュルク語文献資料総体への位置づけを試みた。また，シリア文字テュルク語の使用はおおむね東方キリスト教徒（東シリア教徒，景教徒）に帰せられることから，キリスト教徒が仏教聖地としての榆林窟を訪問して題記を書き残すという状況の歴史的な背景を討議した。

2) 岩本篤志（AA 研共同研究員，立正大学）

「敦煌石窟出行図の基礎的研究－莫高窟曹氏・榆林窟慕容氏出行図を中心に」

(Studies of illustrations of sovereign's march in the Dunhuang wall paintings: A review)

敦煌の莫高窟と榆林窟の張議潮・曹議金・慕容暉の三出行図の関係がどのように理解されているかを中心に先行研究の整理をおこなった。先行研究ではおおむね，節度使と刺史とでは出行図の規模が異なると理解されている。また，描かれた人員や事物は，中心人物の官職と深い関連性を有するとみられている。ただ曹議金と慕容暉は同時期の人物で，その相互関係については文献上，各種の議論が行われている。この発表では出行図と建窟の背景との関係性に言及した。

3) 全員

「成果刊行物編集会議」

成果刊行物の個別パートに関する問題点を討議し，修正案について検討した。さらに成果刊行物の編集作業スケジュールに関する打ち合わせを行った。

4) 全員

「今後の調査に関する打ち合わせ」

主に 12 月の調査活動に関する打ち合わせを行った。